

# 琉歌をよむ 入門編

## 1.琉歌とは

琉歌とは奄美・沖縄諸島で謡われてきた短詩形歌謡の総称で、形式は八八八六音の「短歌」と七五八六音・五五八六音・五七八六音・七七八六音の「仲風」に分けることができる。さらに、長歌形式は八八八六音の連続で末句が六音になる「長歌」、八八音の連続を基調にし長歌よりもながく末句が六音になる「つらね」、八八音の連続で八音の間にハヤシが入る「木遣り」、七五音の連続で和文調の「口説」に分けられる。(参考文献 外間守善「琉歌の種類」『南島歌謡大成Ⅱ 沖縄編下』角川書店 1980／比嘉実「琉歌」『沖縄大百科事典 下』沖縄タイムス社1983)

## 2.歌集を探す

『南島歌謡大成沖縄編下』(外間 守善・比嘉実・仲程昌徳 編、角川書店 1980) 【k912/N48】

屋嘉比朝寄工工四／琉歌百控／天理本琉歌集／疱瘡歌和歌口説古名歌集文／琉球大歌集／古今琉歌集／「混効験集」所収の琉歌／「大島筆記」所収の琉歌／「校注琉球戯曲集」所収の琉歌 が所収され、訳、歌集の解説がついている。

『琉歌全集』(島袋 盛敏・翁長俊郎 編、武蔵野書院 1968) 【k911/SH35】

3000首の琉歌が所収され、歌のローマ字表記、訳、解説がついている。

『琉歌大成』(本文校異編／解説索引編)(清水彰著 編、沖縄タイムス社、1992) 【k911/SH49】

28種の歌集から集められた4937首が所収されている。ローマ字表記と訳がついている。

『琉歌百控』(『新日本古典文学大系62』)(外間守善 編、岩波書店、1997) 【k911/N77】

『琉歌百控』の訳と語の意味を載せている。「琉歌百控」の解説」の項で琉歌の概説、諸歌集と歌人の説明がある。

『初心者のための琉歌入門』(石川亀盛 著編、ニライ社、1998) 【k911/I76】

各歌の語彙、歌意の解説の他に、表記と読み方について、琉歌の作り方、琉歌の実作指導についての説明がある。

『近代琉歌の基礎的研究』(仲程昌徳・前城淳子 著編、勉誠出版、1999) 【k911/N33】

明治に作られた11371首が所収されてい。明治期の琉歌、歌壇についての解説がある。

『琉歌・恋歌の条件』(船越義彰 編、ニライ社、2007) 【k911/F89】

103首所収。ひらがな表記と解説がある。

『琉歌百景』(上原直彦 著、ボーダーインク、2010) 【k911/U36】

訳と歌の背景についての解説がある。

## 3.言葉の意味を調べる

『沖縄古語大辞典』(沖縄古語大辞典編集委員会 編、角川書店出版、1995) 【k80/O52】

『琉歌古語辞典』(阿波根朝松 著、那覇出版社、1983) 【k911/A21】

#### 4.琉歌について学ぶ

- 『南島叙情 琉歌百選』著編(外間守善・仲程昌徳 著編、角川書店、1974) 【k911/H82】  
琉歌についての説明、カタカナ表記、歌意、歌の説明がある。
- 『琉球文学論』(池宮正治 著、沖縄タイムス社、1976) 【k90/I33】  
「Ⅲ琉歌」の項で琉歌の形式、発生、和文学の影響、歌人についての説明がある。
- 『沖縄大百科辞典 下』(沖縄大百科事典刊行事務局 編、沖縄タイムス社、1983) 【K03/O52】  
「琉歌」(比嘉実)の項目に、概説、歴史、歌人についての説明がある。
- 『南島文学論』(外間守善 著、角川書店、1995) 【k90/H82】  
「第4章琉歌論」で琉歌の概説、発生、形式、表記と読み方についての説明がある。
- 『おもろと琉歌の世界』(嘉手苺千鶴子 著、森話社、2003) 【k912/KA23】  
「Ⅲ琉歌・和歌の論」で琉歌の表現や作者についての説明がある。
- 『新編 沖縄の文学』(増補・改訂版)(高教祖教育センター 編、沖縄時事出版、2008) 【k90/SH69】  
琉球文学を全般的に紹介し、その中の「琉歌」の項で琉歌についての概説がある。
- 『琉球歌謡論』(玉城政美 著、砂小屋書房、2010) 【k912/TA78】  
「抒情歌謡についてー琉歌〈恋歌〉ー」の項で恋歌の内容について説明されている。